

地震だ！
まず身の安全

していますか？

家具類の転倒・落下・移動防止対策



千住消防署

家具の転倒・落下防止はなんで
必要なんだろう・・・？



近年、国内で発生した地震被害を調べると、地震で負傷した方のうち3～5割の方が家具類の転倒・落下・移動によるものとなっています。

震度5以上の揺れとなると、棚にある食器類が落ちたり、固定していない家具が移動したり、倒れることがあります。

つまり、家具類の転倒・落下・移動防止対策（以下「家具転対策」という。）は、死傷者を減らすとともに、地震後の出火防止など大きな効果が得られるのです。

震度と長周期地震動階級

● 気象庁が発表する震度

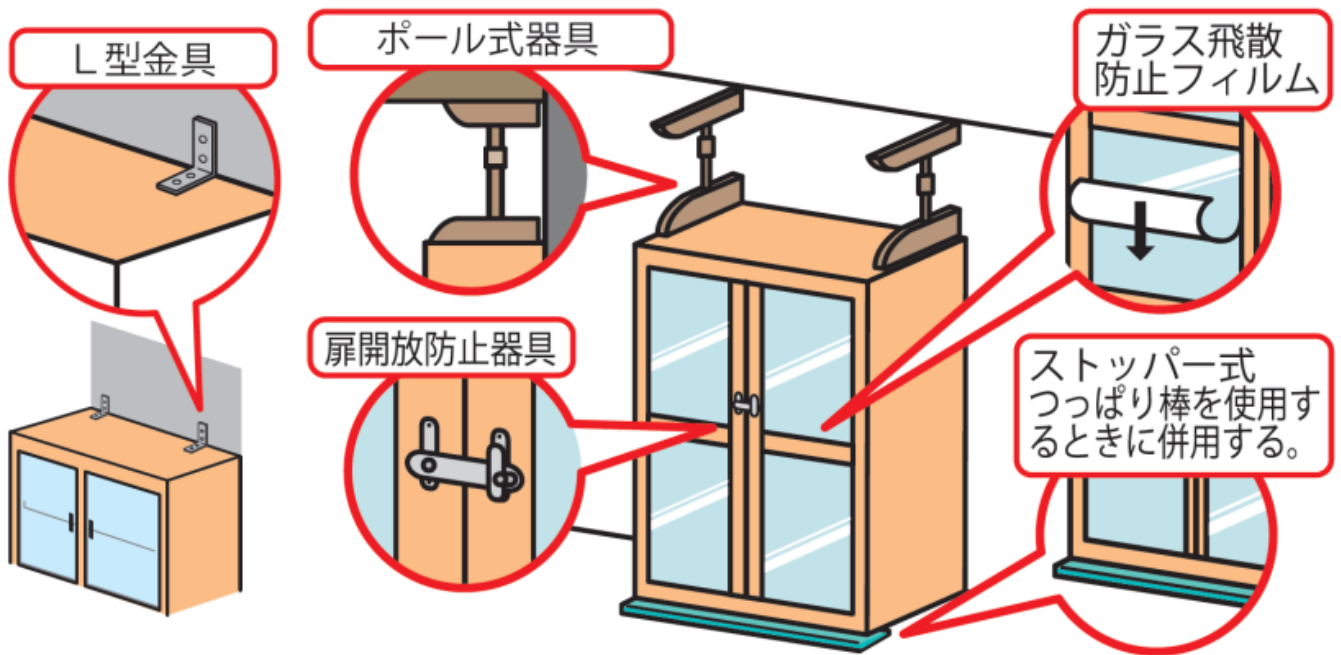
ある震度が観測されたとき、その周辺で発生する現象や被害等の目安は次のとおりです。

震度と揺れ等の状況（概要）

0	 <p>【震度0】 人は揺れを感じない。</p>	1	 <p>【震度1】 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。</p>	2	 <p>【震度2】 屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。</p>	3	 <p>【震度3】 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。</p>
4	 <p>【震度4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ほとんどの人が驚く。 ● 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ● 座りの悪い置物が、倒れることがある。 	6弱	 <p>【震度6弱】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 立っていることが困難になる。 ● 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ● 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ● 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。 <p style="font-size: small;">耐震性が高い 耐震性が低い</p>				
5弱	 <p>【震度5弱】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ● 棚にある食器類や本が落ちることがある。 ● 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。 	6強	 <p>【震度6強】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● はわないと動くことができない。飛ばされることもある。 ● 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 ● 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。 ● 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。 <p style="font-size: small;">耐震性が高い 耐震性が低い</p>				
5強	 <p>【震度5強】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 物につかまらなさと歩くことが難しい。 ● 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。 ● 固定していない家具が倒れることがある。 ● 補強されていないブロック塀が崩れることがある。 	7	 <p>【震度7】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。 ● 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ● 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。 <p style="font-size: small;">耐震性が高い 耐震性が低い</p>				

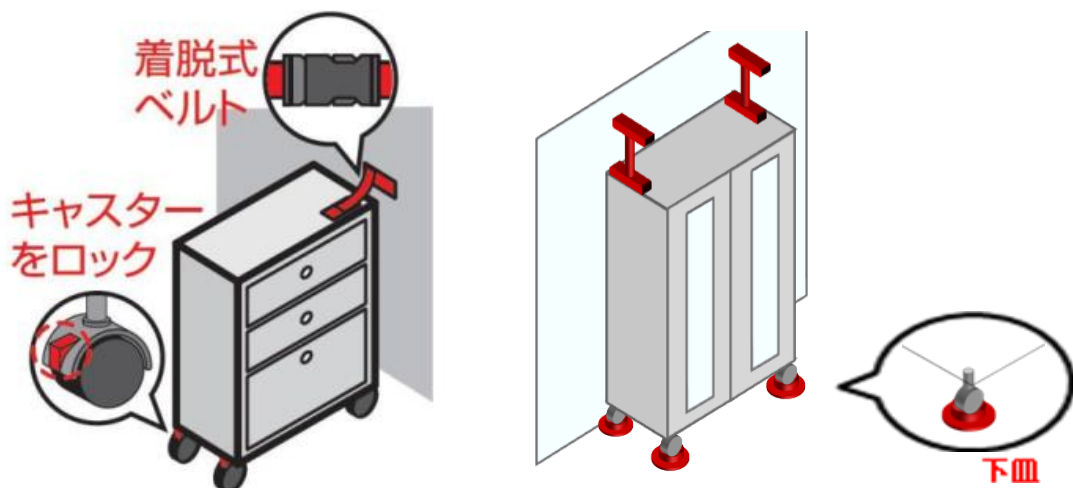
(気象庁ホームページより抜粋)

家具類の転倒・落下防止対策



家具やテレビ、パソコンなどを固定し、店頭や落下防止措置をしておきましょう。また、就寝中の地震発生に備えて寝室の家具は、優先的に転倒防止対策を実施しましょう。重いものは、下に収納することで家具の重心が低くなり転倒しにくくなります。

家具類の移動防止対策



頻繁に移動する家具類は、キャスターをロックし、壁と着脱式ベルトなどで連結しましょう。あまり移動しないキャスター付き家具類は、キャスターに下皿を敷き、さらに転倒防止対策をしましょう。特に高層階では、家具類の移動の割合が高くなるので注意しましょう。